

地域再生計画

1. 地域再生計画の名称

スタジアムリニューアルによる魅力向上プロジェクト

2. 地域再生計画の作成主体の名称

鳥栖市

3. 地域再生計画の区域

鳥栖市の全域

4 地域再生計画の目標

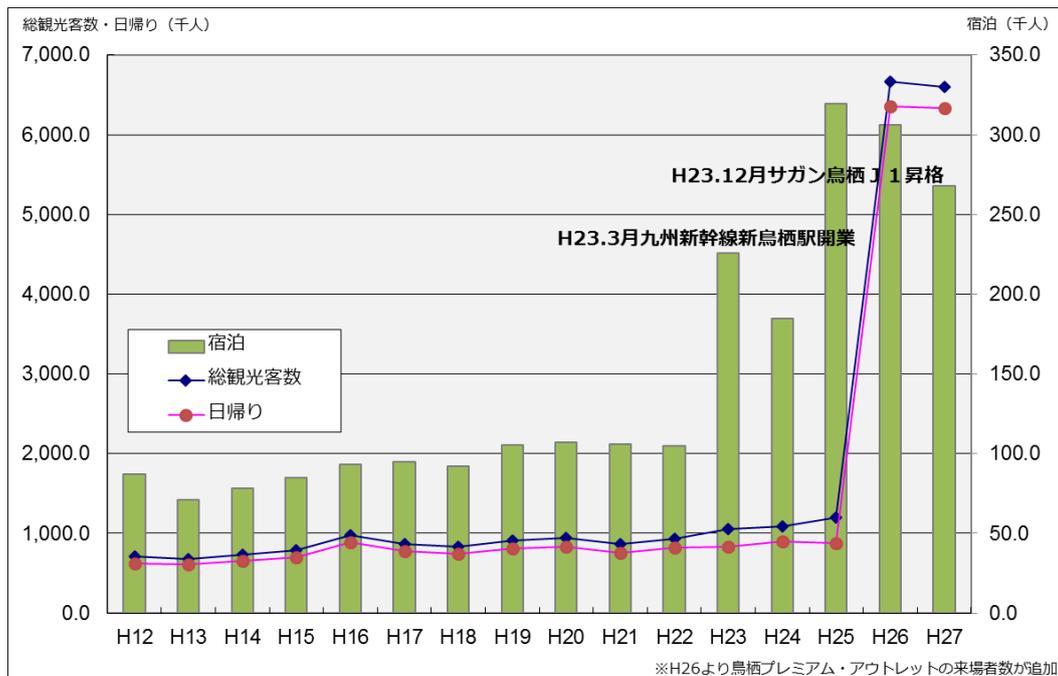
4-1. 地域の現状

ベストアメニティストジアム（鳥栖スタジアム）は、Ｊリーグ「サガン鳥栖」のホームスタジアムであり、25,000人収容の球技専用スタジアムとして平成8年に竣工。国内最初の純鉄骨造りの急傾斜の観覧スタンドを持ち、ピッチと観客席との距離が非常に近いことから、圧倒的な臨場感で観戦を楽しむことができる国内有数のスタジアムである。さらに、交通結節点であるＪＲ鳥栖駅から徒歩3分と抜群の交通アクセスを誇ることもあって、「世界のサッカースタジアム49選」にも選出され、今日では「まちのシンボル」となっている。

また、ベストアメニティストジアムは、サガン鳥栖の活躍を通じて老若男女が感動を共有できる空間として育まれてきただけでなく、サガン鳥栖ホームゲームでは、年間20万人以上の来場者があることから、本市の交流人口獲得における重要な拠点としても大きな役割を果たしてきた。

本市における宿泊者数の推移に着目すると、平成23年度以降、大幅な増加が見られるが、この要因としては、平成23年3月の九州新幹線新鳥栖駅の開業のみならず、同年12月にサガン鳥栖がＪ1昇格を果たし、1試合当たり平均入場者数が約4千人以上増加したことも主たる要因の一つと考えられる。さらに、地域経済分析システム（RESAS）の観光マップ・目的地分析によれば、ベストアメニティストジアムは三大都市圏を中心に全国から広く来場者を集めており、全国のＪリーグクラブのサポーターがサガン鳥栖とのアウェイゲーム観戦のために本市を訪れている状況である。

【図】 鳥栖市の観光客動向（佐賀県観光客動態調査）



4-2. 地域の課題

一方で、ベストアメニティスタジアム建築後20年が経過した現在、施設の機能の維持や不足に関して様々な課題が顕在化してきている。

市内遺跡出土の銅剣をモチーフにしたスタンドの支柱は、ベストアメニティスタジアム最大の特徴の1つであり、電車が鳥栖駅に近づくにつれて、威容を誇るスタジアムが眼前に迫ってくる体験は、来場者の高揚感を刺激する大きな要因となっているが、近年では鉄骨部に錆等が目立ちつつあり、スタジアムの壁面や柱等へのチームカラーの配置やクラブの歴史を知ることのできる機能の設置など、多くの人にサガン鳥栖のホームスタジアムであることを認知してもらい、来場意欲を刺激するような機能も充足しているとは言い難い。

4-3. 目標

現状と課題を踏まえて、ベストアメニティスタジアムの支柱や外壁等への塗装工事を行い、「まちのシンボルとしての輝きを取り戻す」とともに、スタジアム内にサガン鳥栖の歴史等に触れることのできるミュージアム機能を設けることで、スタジアムに新たな魅力を付加し、様々なサガン鳥栖支援のソフト事業と連携してスタジアム来場者数の増加を図ることによって、本市への交流人口の拡大、サガン鳥栖応援気運の高揚、サガン鳥栖を通じたシ

ビックプライドの醸成へと繋げていくものである。

【数値目標】

事業	スタジアムリニューアルによる 魅力向上プロジェクト	年月
KPI	スタジアム年間来場者数	
申請時	213,714人	H29.3
初年度	221,000人	H30.3
2年目	229,500人	H31.3
3年目	238,000人	H32.3

5. 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

交通結節点であるJR鳥栖駅に隣接し、球技専用スタジアムとして高い評価を得ているベストアメニティスタジアムについて、サガン鳥栖ホームスタジアムであることをより強く実感できるように、一部にチームカラーを取り入れながら支柱や外壁等への塗装工事を行い、「まちのシンボルとしての輝きを取り戻す」とともに、スタジアム内にサガン鳥栖の歴史やサッカー文化及びホームゲームの高揚感に触れることのできるようなミュージアム機能を設けることによって、スタジアムに新たな魅力を付加するものである。

さらに、サガン鳥栖ホームゲームでの「鳥栖市民デー」の開催や、ネーミングライツ関連事業などをはじめとしたソフト事業と連携してスタジアム来場者数の増加を図り、本市への交流人口の拡大、サガン鳥栖応援気運の高揚、サガン鳥栖を通じたシビックプライドの醸成へと繋げていくものである。

なお、現在、本市では「鳥栖駅周辺まちづくり事業」にも取り組んでいる。同事業の基本構想において、新たに整備する駅舎・自由通路と東西駅前広場からベストアメニティスタジアムに至る空間を「賑わい結節エリア」とする土地利用構想を策定していることから、今回のベストアメニティスタジアムのリニューアルにあたっては、鳥栖駅周辺整備事業と連携を図り、駅周辺を景観に配慮した統一的なデザインで設えることで、まちの顔としての魅力を高めるための有効な手法としていきたいと考えている。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）【A2007】

(1) 事業名：スタジアムリニューアルによる魅力向上プロジェクト

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

サガン鳥栖のホームスタジアムであることをより強く実感できるよう、ベストアメニティスタジアムの支柱や外壁等への塗装工事を行い、「まちのシンボルとしての輝きを取り戻す」ことによって、「サガン鳥栖がさらに輝く舞台」へとリニューアルするとともに、スタジアム内にサガン鳥栖の歴史やホームゲームの高揚感などに触れることのできるミュージアム機能を設ける。

さらに、様々なサガン鳥栖支援事業と連携してスタジアム来場者数の増加を図ることによって、本市への交流人口の拡大、サガン鳥栖応援気運の高揚、サガン鳥栖を通じたシビックプライドの醸成へと繋げていくものである。

(事業の内容)

・スタジアム施設保全・機能向上事業

ベストアメニティスタジアムは、球技専用スタジアムとして全国的にも高い評価を得ている一方で、建築後20年が経過し、施設の機能の維持や不足に関して様々な課題が顕在化してきている。特に、近年では鉄骨部に錆等が目立ちつつあるため、サガン鳥栖のホームスタジアムであることをより強く実感できるよう、一部にチームカラーを取り入れながら支柱や外壁等への塗装工事を行い、「まちのシンボルとしての輝きを取り戻す」とともに、スタジアム内にサガン鳥栖の歴史やサッカー文化及びホームゲームの高揚感に触れることのできるようなミュージアム機能を設け、スタジアムに新たな魅力を付加することなどによって来場者数の増加を図り、本市への交流人口の拡大、サガン鳥栖応援気運の高揚、サガン鳥栖を通じたシビックプライドの醸成へと繋げていくものである。

→各年度の事業の内容

スタジアム施設保全・機能向上事業

初年度) 設計業務

2年目) メインスタンド側、北サイドスタンド側のエリアにおいて、支柱及び壁面等への塗装工事を行う (第1期)

3年目) バックスタンド側、南サイドスタンド側のエリアにおいて、支

柱及び壁面等への塗装工事を行い、エントランスホール付近にミュージアムコーナーを整備する。（第2期）

（4）地方版総合戦略における位置付け

本市の“鳥栖発”創生総合戦略において、シビックプライドの醸成を施策の基本的方向の1つに位置付けており、プロサッカーチームの誘致、スタジアムの建設、クラブハウス等の練習場の整備、Jリーグクラブライセンス対応に伴うスタジアムの改修など、サガン鳥栖のホームタウンとして着実に支援に取り組んできたことをふまえ、「サガン鳥栖支援事業」を主な施策として位置付け、サガン鳥栖に対し、まちづくりのパートナーとしての相互作用を高めるための支援に取り組むこととしている。本事業は、総合戦略で掲げる目標達成に直接寄与するものである。

（5）事業の実施状況に関する客観的な指標（KPI（重要業績評価指標））

事業	スタジアムリニューアルによる 魅力向上プロジェクト	年月
KPI	スタジアム年間来場者数	
申請時	213,714人	H29.3
初年度	221,000人	H30.3
2年目	229,500人	H31.3
3年目	238,000人	H32.3

（6）事業費

（単位：千円）

スタジアム リニューアルによる魅 力向上プロ ジェクト	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計	13,000	404,000	269,000	686,000
区分	委託料	13,000	8,000	5,000	26,000
	工事請負費		396,000	264,000	660,000

（7）申請時点での寄附の見込み

年度	H29	H30	H31	計
法人名	株式会社 Cygames	株式会社 Cygames	株式会社 Cygames	株式会社 Cygames
見込み額 (千円)	13,000	404,000	269,000	686,000

(8) 事業の評価の方法 (PDCAサイクル)

(評価の手法)

鳥栖市まち・ひと・しごと創生有識者会議(学識経験者、区長会、商工、観光、市民活動団体、子育て団体、金融機関、労働団体等の代表者)による効果検証を実施する。

(評価の時期・内容)

毎年度、年度末時点のKPIをとりまとめ、評価を実施し、翌年度意向の取組方針を決定する予定。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに鳥栖市公式ホームページ上で公表する。

(9) 事業期間：平成29年11月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) サガン鳥栖支援事業

事業概要：地域の宝である「サガン鳥栖」を支援していく具体的取組み(サガン鳥栖ホームゲーム「鳥栖市民デー」の開催、試合及び練習環境の保全事業、ネーミングライツ関連事業、サガン鳥栖ラッピングバスの市内路線運行、市庁舎窓口でのユニフォーム着用等)を率先的に行い、市民に「サガン鳥栖支援」の輪を広げていくとともに、九州内のJリーグホームタウンとの連携事業を推進する。

実施主体：鳥栖市

事業期間：平成29年4月～平成32年3月

(2) 地域交流推進事業

事業概要：市民がホームタウンを実感できる事業（サガン鳥栖ホームゲーム「鳥栖市民デー」の開催、シーズンカレンダーの全戸配布事業、市内各所へのチームフラッグ掲揚事業、市内小学校等でのサッカー教室・出前授業の開催等）を実施することで、サガン鳥栖ホームゲームへの集客支援と応援機運の醸成を図る。

実施主体：鳥栖市

事業期間：平成29年4月～平成32年3月

6. 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

鳥栖市まち・ひと・しごと創生有識者会議（学識経験者、区長会、商工、観光、市民活動団体、子育て団体、金融機関、労働団体等の代表者）による効果検証を実施する。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度、年度末時点のKPIをとりまとめ、評価を実施し、翌年度意向の取組方針を決定する予定。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに鳥栖市公式ホームページ上で公表する。